

# 第2次地球温暖化対策実行計画 平成28年度実績報告書



桂沢水道企業団

Katurazawa suidoukigyoudan

○はじめに

当企業団では、地球温暖化の原因となります温室効果ガスの排出量削減を目標とする「桂沢水道企業団 第2次地球温暖化対策実行計画」を平成26年10月に策定し、取り組みを進めているところです。

これは、当企業団の事務事業から排出される温室効果ガスにおいて平成24年度を基準年度として、平成26年度から平成30年度までの5年間で2%削減することを目標としています。

本報告書は、平成28年度における、その実施状況を取りまとめたものです。

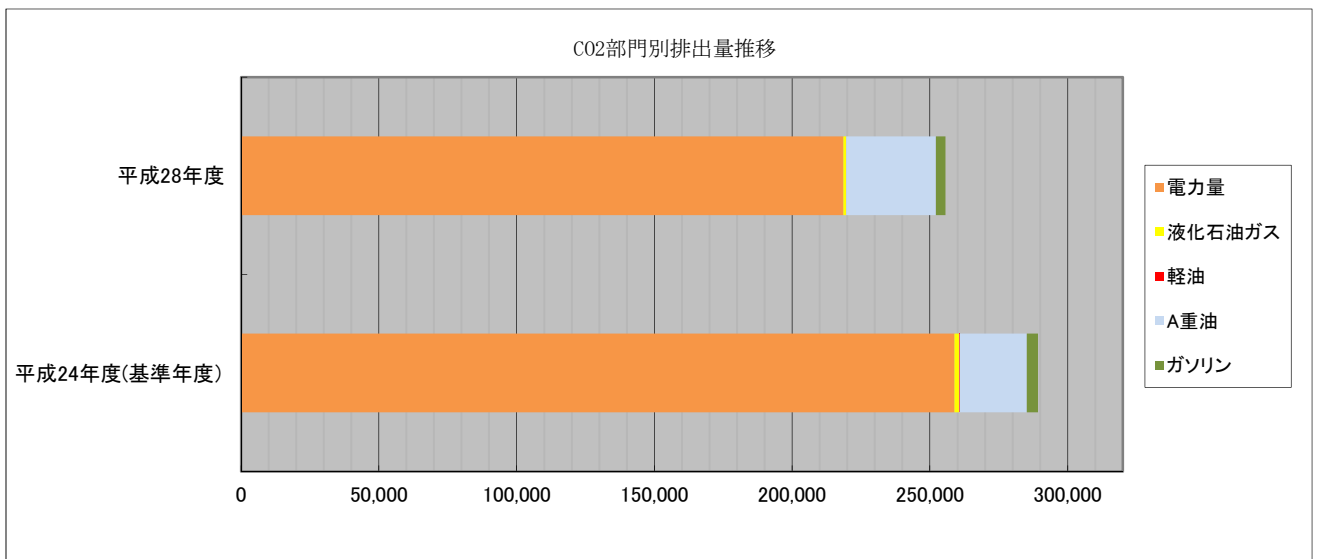
○桂沢水道企業団地球温暖化対策実行計画の概要

- ・ 計画期間 . . . 平成26年度～平成30年度
- ・ 計画の基準年度 . . . 平成24年度
- ・ 計画の対象物質 . . . 「地球温暖化対策の推進に関する法律」第2条3項より、温室効果ガスの削減対象として記載されている7種類(二酸化炭素、メタン、一酸化炭素、ハイドロフルオロカーボン、パーフルオロカーボン、六フッ化硫黄、三フッ化窒素)の内、排出量の把握が可能な「二酸化炭素」を対象とする。
- ・ 計画の対象範囲 . . . 桂沢水道企業団に係る事務及び事業を対象とし、外部委託等により実施する事務及び事業は対象外とするが、排出抑制等の措置が可能なものについては、受託者に対して協力を要請する。
- ・ 計画削減目標 . . . 平成30年度において、基準年度の2%削減を目標とする。

○目標設定対象排出量

平成24年度（基準年）と平成28年度の目標設定対象排出量は、下記に示す通りです。

調査項目	平成24年度（基準年度）				平成28年度				基準年度比
	使用量		CO2排出量		使用量		CO2排出量		
電力量	376,247.00	Kwh	258,858	kg-CO <sub>2</sub>	345,885.00	Kwh	218,599	kg-CO <sub>2</sub>	-16 %
A重油	9,000.00	ℓ	24,390	kg-CO <sub>2</sub>	12,000.00	ℓ	32,520	kg-CO <sub>2</sub>	33 %
ガソリン	1,730.49	ℓ	4,014	kg-CO <sub>2</sub>	1,516.00	ℓ	3,517	kg-CO <sub>2</sub>	-12 %
軽油	128.00	ℓ	330	kg-CO <sub>2</sub>	0.00	ℓ	0	kg-CO <sub>2</sub>	-100 %
液化石油ガス	537.59	kg	1,614	kg-CO <sub>2</sub>	335.00	kg	1,005	kg-CO <sub>2</sub>	-38 %
合計			289,206	kg-CO <sub>2</sub>			255,641	kg-CO <sub>2</sub>	-12 %



### (1) 電力量

平成28年度における、使用量は345,885Kwhとなっており、取り組みの徹底、施設の運用方法の見直しにより、基準年度（平成24年度）と比べると16%（30,362Kwh）の減となっております。

今後も電力量の削減に向け、次の取り組みを徹底して参ります。

- ①必要箇所を除いて原則消灯します。
- ②昼休みや時間外は、業務に支障のない範囲で消灯します。
- ③昼休みや外勤等、パソコンを使用しないときは電源を切るようにし、ノー残業デーの徹底を図り、事務所の早期消灯に努めます。
- ④退庁時には、照明・OA機器等の電源が完全に切られているかを確認します。
- ⑤冷房時の室温を28度に設定します(ただし、外気温や湿度を考慮し、柔軟に対応する事とします)。
- ⑥効率の良い作業を徹底し、極力、残業を致しません。

### (2) A重油

主に暖房用の蒸気ボイラーにおける使用となります。平成28年度のA重油の使用量は12,000lとなっており、基準年度（A重油）対比で33%（3,000l）の増となります。

これは、桂沢浄水場更新事業等をはじめとした大型事業を行っていることから、利用時にしか暖房を稼働しない会議室の使用機会が増えた事が原因です。次年度については、こまめな暖房の運転停止を行うなど、次の取り組みを徹底して削減に向け努力してまいります。

- ①暖房時の室温を20度に設定します。
- ②ウォームビズを励行し、暖房温度の抑制を図ります。
- ③使用していない部屋や、使用頻度の少ない部屋の暖房は、停止とします。
- ④勤務時間以外の暖房は原則停止します。

### (3) ガソリン

平成28年度における、公用車のガソリン使用量は1,516ℓとなっており、公用車をアイドリングストップ機能を搭載した車両に入れ替えた為です。基準年度（平成24年度）対比で12%（214.49ℓ）の減となっております。

今後においても職員一人一人が、次の取り組みを徹底し、削減に努めて参ります。

- ①急発進、急加速、空ぶかしをせず、経済速度での運転に努めます。
- ②荷物の積み下ろし、人待ち、待機時は、不必要なアイドリングを止め、燃料の節約に努めます。
- ③タイヤの空気圧等、車両の適正管理に努めます。

### (4) 軽油

平成27年度よりすべての公用車がガソリン車になりましたので、軽油の使用量はなしとなっております。

### (5) 液化石油ガス

水質検査で使用する、試験器具等の洗浄に用いる温水給湯器による消費が主な用途であります。平成24年度と比べると38%（202.59kg）の減となっております。

この要因は、水質検査体制について、一部項目を委託したことにより、基準年度と比べて減となっております。

### (6) 総括

平成28年度においては、平成24年度（基準年度）に対して、二酸化炭素排出量は12%の削減を達成することができました。

今後も取り組みを継続し、平成30年度の目標達成に向け引き続き、職員一人一人が地球温暖化に対する意識を持ち、資源の使用節減に努め、“温室効果ガス”の総排出量の削減に向けて取り組みを励行できるよう進めて参ります。